

匹見演習林産菌類雑録 (I)

山本昌木・安盛 博 (植物病学研究室)

Masaki YAMAMOTO and Hiroshi YASUMORI

Miscellaneous Notes on Fungi Collected at "Hikimi" College Forest (I)

匹見演習林は島根県美濃郡匹見町赤谷にあり、海拔480~1180m、面積227haの広葉樹を主とする森林であるが、島根県下に於ける天然杉の自生地としても有名である。筆者らは昭和31年以来同林に菌類の採集を行いつつあるが、現在迄に検出し得たものを報告し、更に今後の調査により補足して行きたい。

稿を起すに当り、調査の機会を与えられた演習林長遠山教授、前演習林長成田教授、標本の同定に御教示を賜わった京大赤井教授、東京教育大平塚教授、東亜農業香月技師、滋賀大本郷博士、京都学芸大永友教授、京大上山学士、本学附属農高丸山教諭に深甚なる感謝の意を表す。又採集に種々便宜を与えられた演習林沖村助教授及び山根、小野両氏に感謝する。

(a) 顕微鏡的菌類

Armatella litseae (P. HENN.) THEISS. et SYD.

on *Neolitsea sericea* (BLUME) KOIDZ. シロダモモ病病菌

31%, 1959 安盛, 911, 1959 山本

葉の表面又は裏面に黒色の菌糸を生じ煤状で粗糙、小粒点を認める。子のう殻は球状、径約62.4~156.0 μ 、子のうは楕円形又は棍棒状、4~6個の子のう胞子を有する。胞子は楕円形、2胞、7.8~13.7 \times 2.5~4.9 μ の大きさである。

Acrotheca sp.?

on *Lindera umbellata* THUMB. (クロモジ)

31%, 1959 安盛

葉に淡褐色~褐色、中央部濃色の病斑を生じ、裏面に分生子梗及び分生子胞子を生ずる。分生子梗は淡黄~褐色で、巾3.1~4.7 μ 、分生子胞子は単胞で淡黄褐色、大きさ4.1~9.4 \times 3.1 μ である。

Allantozythia sp.

on *Comanthosphace stellipila* (MIQ.) S. L. MOORE (ミカエリソウ)

23%, 1956 山本・安盛

葉に1~3cm径淡黄褐色、中央部淡黄褐~黒色の病

斑を生ずる。裏面は白色を帯びる。病斑内部に稍濃色の小点を有する。柄子殻は表皮下に埋没、淡黄色で円形、6.20~6.90 μ の大きさを有する。柄胞子は無色単胞円筒形、大きさ3.1~3.7 \times 0.6~1.2 μ である。

Cercospora cryptomeriae SHIRAI

on *Cryptomeria japonica* (Linn.) D. Don

23%, 1956 山本・安盛 杉赤枯病菌

匹見地方にも多く見受けられる杉の病害である。

Cercospora kaki ELL. et EV.

on *Diospyros kaki* L. f. カキ角斑落葉病菌

911, 1959 山本

Cercospora hydrangea Ellis et Everhart

on *Hydrangea macrophylla*

subsp. *serrata* (THUMB.) MAKINO (ヤマアジサイ)

23%, 1956 山本・安盛

葉に2~5cm径、紫~紫褐色病斑を生じ、古くなったものは周囲紫色、中央部灰白色、分生子は長さ28.0~43.7 μ 、数個の隔膜を有し透明である。遠藤博士はアジサイを侵すものは*Cercospora obtogens* SYD.があり、これは無色紡錘形で多少彎曲する11の隔膜を有し93.3~16.6 \times 10.6~16.0 μ の大きさを有するが、該菌と比較する機会がないからアジサイの葉斑病菌を*Cercospora* sp.と種名の決定をさけられた。遠藤 庭木と草花の病害 p 179 昭15

Colletotrichum sp.

on *Acer rufinerve* SIEB. et ZUCC. ウリハダカエデ炭疽病菌

23% 1956 山本・安盛

葉に0.5~1cm径不正円形褐色の病斑を生ずる。剛毛は長さ17.5~31.5 μ 、分生子胞子は7.0~14.0 \times 3.5~3.8 μ の大きさを有し、単胞である。カエデにつく炭疽病菌には*Gloeosporium apocryptum* ELL. et EV. が知られている。

Coleosporium asterum (DIETEL) SYDOW

on *Aster ageratoides* TRUCZ.

var. *semiamplexicaulis* (MAKINO) OHWI

3½%, 1959 安盛 イナカギク 銹病菌

葉裏 1 mm 径, 黄~黄褐色の夏孢子堆を生ずる。夏孢子 20.3~24.9×12.5~18.7μで細疣を有する。

Coleosporium phellodendri KOMAROV

on *Phellodendron amurense* RUPR. キハダ 銹病菌

2¾%, 1956 山本・安盛

葉裏に冬孢子堆, 冬孢子は 31.5~56.0×14.0~17.5μの大きさを有する。

Coniothyrium sp.

on *Rodgersia podophylla* A. GRAY. (ヤグルマソウ)

2¾%, 1956 山本・安盛

葉に円状~不正円の大きな褐色病斑を生ずる。柄子殻は表皮下に散生, 球状黒色で口孔を穿つ。15.6~46.8μの径を有する。柄胞子は略々球形, 3.1~4.7μ径を有する。

Discosia artroceras (TODE) FR.

on *Rubus palmatus* THUMB. (ナガバノモミジイチゴ)

2¾%, 1956 山本・安盛

0.5~0.8 cm 径 褐色病斑中に小黒点がある。柄子殻は径 62.4~78.0μ, 柄胞子は 14~22×2~3.5μの大きさを有する。

Discosia sp.

on *Aesculus tubiuata* BLUME (トチノキ)

3¼%, 1959 安盛

葉脈間に輪廓明瞭な褐色病斑を生ずる。不正形で周辺は濃褐色である。小さなものは 0.5 cm 角で, 大きなものは葉脈を超え脈間の病斑数個融合する。病斑内に小黒点散在する。柄子殻は 62.4~78.0μ 径, 柄胞子は 12.4~18.7μの長さを有し, 両端糸状附属糸を有する。その長さ 6.2~9.4μ。

Discosia sp.

on *Hydrangea luteo-venosa* KOIDZ. (コガクウツギ)

2¾%, 1956 山本・安盛

柄胞子の大きさ 13.3~17.5×2.1~2.8μ, 繊毛の長さ 4.2~7.0μである。

Discosia sp.

on *Lindera membranacea* MAXIM. (オオバクロモジ)

2¾%, 1956 山本・安盛

葉に不規則な褐色の病斑を生ずる。病勢進んだものは中央部淡色で小黒点を散生する。胞子は 12.5~15.6×1.6~2.5μの大きさがああり, 3 隔膜を有する。

Discosia sp.

on *Lysimachia clethroides* DUBY. (オカトラノオ)

2¾%, 1956 山本・安盛

3~4 cm 径, 不正円形 淡褐色, 周囲褐色の病斑を生ずる。病斑内に小黒点を散生する。柄子殻は約 62.4μの

径を有し, 柄胞子は 9.3~15.6×2.8~3.1μの大きさである。

Discosia sp.

on *Sorbus japonica* (DECNE) HEDL. (ウラジロノキ)

3¼%, 1956 山本・安盛

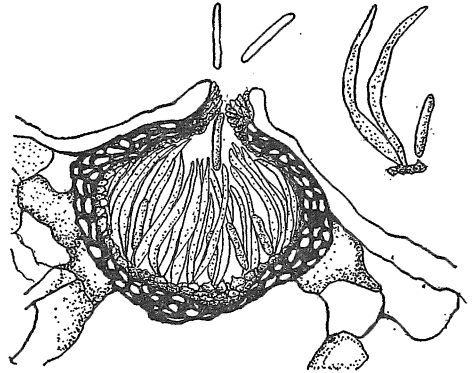
葉に 0.2~1.5 cm 径 不正円形病斑を生じ, 小黒点を表面に認める。柄胞子は 10.9×1.2μの大きさがああり, 透明で数細胞からなる。繊毛は 9.4~10.9μの長さである。

Lichenophoma sp.

on *Ilex pedunculosa* MIQ. (ソヨゴ)

2¾%, 1956 山本・安盛

葉表面に 0.5~1.5 cm 径 褐色の病斑を生じ, 内部灰褐色で小黒点を散生する。柄子殻は口孔を有し, 87.5~12.3×56.0~94.5μの大きさである。柄胞子は 10.5~21.0×3.5μの大きさを有する。



第1図 *Lichenophoma* sp.

on *Ilex Pedunculosa* MIQ. (ソヨゴ)

側糸は長糸状, 28.0~52.5×2.1~6.3μの大きさである。*Lichenophoma haematommatis* は *Haematommatis elatini* MASS. という地衣類の一種に寄生する事が報告せられている。*Lichenophoma* は *Phoma* 菌に類似し, 側糸を有する特徴がある。Keißler, K.: *Hedwigia* 50: 294~298, 1911, 我が国では未だ本属菌に就いての記載を見ないようである。

Macrophoma fraxini DELACR.

on *Fraxinus satsumana* KOIDZ. (ツクシトネリコ)

2¾%, 1956 山本・安盛

葉に淡褐色径 2~5 cm の病斑を生じ, 大型褐色の輪紋を有し小黒点を散生する。柄子殻は 31.2~93.6μ 径, 柄胞子は無色単胞円筒形, 内部に多数の顆粒を包含する。大きさ 15.6~21.8×3.7~4.7μ。

Macrophoma sp.

on *Skimmia japonica* THUMB. var. *repens* (NAKAI)

OHWI (ツルシキミ)

23%, 1956 山本・安盛

径3~6cm周辺褐色, 内部淡灰褐色の病斑を葉に生ずる。柄子殻は 85.8~245.0 μ 径, 柄胞子は無色透明長楕円形, 15.6~18.7 \times 2.5~3.1 μ の大きさである。

Melasmia illicis P. HENN. ?

on *Ilex geniculata* MAXIM. (フウリンウメモドキ)

23%, 1956 山本・安盛

子座は葉の表面に生じ黒色, 患部裏面は灰褐色。組織は白色。分生胞子は無色単胞, 3.5~5.3 \times 1.8 μ 。

Melasmia menziesiae SAWADA

on *Menziesia ciliolux* (MIQ.) MAXIM. (ウスギョウラク)

23%, 1956 山本・安盛

9/11, 1959 山本

葉の上面に黒色子座。分生胞子楕円形2.1 \times 1.8 μ 。 *M. menziesiae*はウラジロヨウラク, コヨウラクツツジ, アラゲエツツジにつくが, 恐らく同一のものであろう。 *Rhytisma shiraiana* HEMMI et KURATA 菌との異同については検討を要するであろう。

Melasmia sp.

on *Lonicera japonica* THUMB. (スイカズラ)

23%, 1959 安盛

子座は葉の表面に散生し光沢あり, 隆起し円形~多角形。分生胞子は単胞, 4.6~9.4 \times 2.5~3.1 μ 。

Monochaetia sp.

on *Acer rufinerve* SIEB. et ZUCC. (ウリハダカエデ)

23%, 1956 山本・安盛

葉に0.5~1.0cm 径褐色病斑を生じ小黒点を散生する。分生胞子は43.7~54.6 \times 17.5~25.3 μ 。

Mycosphaerella cerebella ACLERB.

(=*Cercospora cerebella* SACC.)

on *Prunus yamasakura* SIEB. ヤマサクラ穿孔性褐斑病菌

23%, 1959 安盛

3~5mm 径褐色病斑。分生胞子は無色~淡黄色, 数個の隔膜を有する。大きさ21.8~37.4 \times 3.12 μ 。

Ochrospora krauhiae DIETEL.

on *Wisteria floribunda* (WILLD.) D. C. フジ銹病菌

23%, 1959 安盛

葉裏面に夏胞子堆及び冬胞子堆を生ずる。夏胞子堆は0.1mm 径黄褐色, 夏胞子は黄色, 卵形, 円形又は楕円形, 細疣を有する。大きさ14.0~21.8 \times 14.0 μ 。冬胞子堆は0.1mm 径扁平, 冬胞子は長円形~棍棒状, 1~4室, 大きさ15.7~31.2 \times 3.1~6.2 μ 。

Ophiosphaerella sp.

on *Quercus salicina* BLUME. (ウラジロガシ)

23%, 1956 山本・安盛

葉先端白く枯死, 葉表面に小黒点散生, 子のう殻は黒色, 孔を開くが嘴を有しない。子のうは38.5~80.5 \times 7.0~10.5 μ , 子のう胞子は49.0~63.0 \times 2.1~3.2 μ の大きさを有する。

Pestalotia aceris P. HENN.

on *Acer rufinerve* SIEB. et ZUCC. (ウリハダカエデ)

23%, 1956 山本・安盛

大きさ不同の小黒点を0.5~1.5cm 径褐色病斑内に散生。分生胞子は4個の隔膜を有し両端の細胞は無色, 中央3細胞は着色, 先端細胞に3本の繊毛を有し無色である。胞子の大きさ18.7 \times 6.2 μ , 繊毛の大きさ9.4~12.5 \times 0.6 μ である。

Pestalotia sp.

on *Eukianthus perulatus* (MIQ.) SCHNEIDER

23%, 1959 安盛 (ドウダンツツジ)

葉表面に0.5~3.0cm 径褐色病斑中に小黒点散生, 裏面は淡褐色, 胞子層は表皮下に生ずる。胞子中央3細胞は黒褐色 20.3 \times 9.4 μ , 頂部細胞は三角形, 三本の繊毛あり, 長さ12.5~21.8 μ 。基部の細胞は倒三角形, その基部に一本の短柄を有し, 長さ1.6~6.2 μ 。ジャクナゲにつく *Pestalotia* 菌には *P. macrotricha* がある。原: 目録 p.45.

Pestalotia sp.

on *Quercus acutissima* CARRMTHERS (クヌギ)

9/11, 1959 山本

全葉褐変し, 葉裏に黒色小斑点を認める。柄子殻は45.5 \times 35.0 μ , 柄胞子は14.0~21.0 \times 3.5~4.2 μ の大きさを有する。 *Quercus* につく *Pestalotia* としては *P. truncata* LEV., *P. uncinata* ELL. et KELL., *P. microspora*, *P. monochaeta* DESM., *P. montellica* SACC. et VOGL., *P. pallida* ELL. et EV., *P. sacchardoi* SPEG., *P. hysteriformis* B. et C., *P. catagne* DESM. 等が知られているが, 本菌の同定は後日にゆずりたい。

Phaeoisariopsis griseola (SACC.) FR.

on *Rhynchosia acuminatifolia* MAKINO

23%, 1956 山本・安盛 (トキリマメ)

葉に多角形の病斑を生じ, 裏面に黒色の分生胞子及び分生子梗を生ずる。分生胞子は棍棒状, 稍彎曲し数個の隔膜を有する。 *P. griseola* はインゲンマメ角斑病菌であるが, 同一菌ではなかるうか。

Phaeosphaerella sp.

on *Ilex pedunculosa* MIQ. (ソヨゴ)

9/11, 1959 山本

径4~10mm 灰褐色の円形病斑内に小黒点を散生する。子のう殻は52.5~60.0 μ 径, 孔口は無い。子のう胞子の

大きさは $18 \times 5 \mu$, 2細胞, 淡褐色で側糸を有しない。

Phakospora meliosmae KUSANO

on *Meliosme myrianth* SIEB. et ZUCC.

アワブキ銹病菌

♀₁₁, 1959 山本

冬胞子堆の大きさ $28.0 \sim 70.0 \times 17.5 \sim 24.5 \mu$, 冬胞子は $14.5 \sim 21.0 \times 1.8 \sim 3.5 \mu$, 3~4層である。

Phomatospora sp.

on *Quercus calicus* BLUME. (ウラジロガシ)

♀₃, 1956 山本・安盛

葉上灰白色の病斑を生じ, 小黒点を散生する。子のう殻は楕状物も嘴も有しない。 $70 \sim 87.5 \mu$ 径の大きさである。子のうは $21.0 \sim 24.5 \times 6.3 \sim 7.0 \mu$ の大きさがあり, 4~8個の胞子を持っている。子のう胞子の大きさは $4.2 \sim 9.8 \times 2.8 \sim 4.2 \mu$ である。

Phyllosticta aceris SACC.

on *Acer rufinerve* SIEB. et ZUCC. (ウリハダカエデ)

♀₃, 1956 山本・安盛

$0.5 \sim 1.0$ cm径の褐色病斑を葉上に生じ, 内部に黒点を散生。古くなった病斑は破れて抜ける。柄子殻は $159.2 \sim 183.7 \mu$ 径, 柄子殻は単胞無色, $3.1 \sim 4.6 \times 1.9 \sim 3.1 \mu$ *P. aceris*の胞子の大きさは $5 \times 2.5 \sim 3.0$, *P. acericola*胞子の大きさは $8 \times 5 \mu$ と記されている (Sacc. III 14) が, 前者に近いものである。

Phyllosticta akebiae NAITO

on *Akebia trifoliata* KOIDZ. (ミツバアケビ)

♀₁₁, 1959 山本

葉表面 $3 \sim 7$ mm径灰褐色病斑内に小黒点散生, 柄子殻は $42.0 \sim 52.5 \mu$ 径, 柄胞子は $3.5 \sim 6.3 \times 1.1 \sim 2.8 \mu$ である。

Phyllosticta castaneae ELL. et EV.

on *Castanea crenata* SIEB. et ZUCC. (クリ)

♀₁₁, 1959 山本

灰白色大形の病斑中に小黒点散生, 柄子殻は $38.5 \sim 98.0 \times 59.5 \sim 92.5 \mu$, 柄胞子は $3.5 \sim 6.3 \times 1.5 \mu$ の大きさを有する。

Phyllosticta celastricola SAWADA

on *Celastrus orbiculatus* THUMB. (ツルウメモドキ)

♀₃, 1956 山本・安盛

葉に多角形~円形, 褐色~灰褐色の病斑を散生, 柄子殻は $3.0 \sim 31.2 \mu$ 径, 柄胞子は無色単胞短円柱状 $5.6 \times 3.1 \mu$ の大きさを有する。

Phyllosticta cirsii DESM.

on *Cirsium bitchuense* NAKAI (ピッチェウアザミ)

♀₃, 1956 山本・安盛

葉上に灰白色の病斑を生じ小黒点を散生する。柄子殻

147.0μ 径, 柄胞子は $3.1 \sim 21.8 \times 2.5 \mu$ の大きさである。

Phyllosticta fraxini ELL. et M.

on *Fraxinus satsumana*, KOIDZ. (ツクシトネリコ)

♀₃, 1959 山本・安盛

$0.5 \sim 1.5$ cm径灰褐色の病斑内部に小黒点散生, 柄子殻は 280μ 径, 柄胞子は $1.8 \sim 4.6 \times 1.1 \sim 2.1 \mu$ の大きさである。*P. fraxinis*の原記載では柄子殻が 150μ 径, 柄胞子は $7 \sim 9 \times 2.5 \sim 3 \mu$ であり, 若干の相異を認めるが, 恐らく同一菌であろう。

Phyllosticta hydrangeae ELL. et EV.

on *Hydrangea hirta* (THUMB.) SIEB. (コアジサイ)

♀₁₁, 1959 山本

$2 \sim 3$ cm径不正円形暗色病斑を葉上に生ずる。古くなつたものは内部灰白色で小黒点を散生する。柄子殻は, $52.5 \sim 84.0 \times 35.0 \sim 80.5 \mu$, 柄胞子は $2.8 \sim 5.3 \times 1.1 \mu$ の大きさを有する。

Phyllosticta linderiae ELL. et EV.

on *Lindera obtusiloba* BLUME (ダンコウバイ)

on *Lindera umbellata* THUMB. (クロモジ)

♀₁₁, 1959 山本

ダンコウバイでは $0.5 \sim 5.0$ cmの大型の褐色病斑を生じ, 輪紋を有することが多い。病葉は黄変し, 病斑内に黒色小点散生する。柄子殻 $87.0 \times 58.8 \mu$, 柄胞子 $3.4 \times 0.7 \mu$ 。クロモジでは黒褐色 $1 \sim 2$ cm病斑内に黒色小点を散生する。*Lindera*につく*Phyllosticta*菌には*P. linderiae* ELL. et EV. と *P. lindericola* ELL. et EV. が知られて居り, 前者は柄子殻 $65 \sim 75 \mu$ 径, 柄胞子 $3 \sim 4 \times 0.5 \mu$ 後者は柄子殻 $100 \sim 120 \mu$ 径, 柄胞子 $4 \sim 7 \times 2 \sim 3 \mu$ と記されている。(Sacc. X, 121, XI, 473)

Phyllosticta quercea THIEN.

on *Quercus acutissima* CARRUTHERS (クヌギ)

♀₁₁, 1959 山本

全葉褐色に変じ, 灰白色不正円形径 $3 \sim 5$ mmの病斑上に小黒点散生。柄子殻 $52.1 \sim 70.0 \times 59.5 \sim 82.5 \mu$, 柄胞子は $2.4 \sim 3.5 \times 0.8 \mu$ の大きさを有する。*Quercus*につく*Phyllosticta*には*P. castanea* ELL. et EV., *P. agrifolia* E. et E., *P. quercus-prini* ELL. et EV., *P. quercus* SACC. et SPEG., *P. quercus rubsae* W., *P. quercus illicis* SACC. 等があるが, *P. quercea*が一番近いようである。

Phyllosticta stachydis BRUN. f.

on *Stachys precox* SIEB. et ZUCC. (キブシ)

♀₁₁, 1959 山本

葉に黒褐色不正円形の病斑を生じ, 古くなると中央部灰白色となり小黒点を認める。柄子殻は $35.0 \sim 70.0 \mu$ 径, 柄胞子は $3.5 \sim 5.3 \times 1.1 \mu$ の大きさを有する。

Phyllosticta Vaccini-hirti P. HENN.on *Hugeria japonica* (MIQ.) NAKAI (アキシバ)

23%, 1956 山本・安盛

0.5~1.5cm径, 中央部灰白色, 周囲紫褐色の病斑中に小黒点散生。柄子殻は 62.4 μ 径, 柄胞子は 3.1 \times 1.6 μ の大きさである。

Phyllosticta sp.on *Actinidia arguta* (SIEB. et ZUCC.) PLAUCH

29%, 1959 安盛 (サルナシ)

葉に中央部灰色の褐色病斑を生じ, 小黒点を認める。柄子殻は53.1 μ , 柄胞子は4.7 \times 2.5 μ の大きさを有する。

Phyllosticta sp.on *Arachys hypogea* L. (落花生)

9/11, 1959 山本

葉に2~5mm径不正円形褐色病斑を生ずる。古くなつたものは内部灰白色となり小黒点を散生する。柄子殻は45.5~70.0 \times 35.0~77.0 μ , 柄胞子は4.2~5.3 \times 1.4 μ の大きさがある。

Phyllosticta sp.on *Eurya japonica* THUMB. (ヒサカキ)

23%, 1959 安盛

輪廓黒褐色, 3~5cm径の病斑を葉に生ずる。中央部灰白色小黒点あり, 柄子殻は 62.4~158.0 μ 径, 柄胞子は 3.1~4.6 \times 1.9~2.5 μ の大きさである。

Phyllosticta sp.on *Helwingia japonica* (THUMB.) F. G. DIETR.

23%, 1959 山本・安盛 (ハナイカダ)

葉に褐色で径約3mmの不規則円形病斑を生じ, 内部白色で小黒点散生する。柄子殻は78.0~93.6 μ 径, 柄胞子は無色単胞で2.5~3.4 \times 0.9~1.9 μ の大きさを有する。

Phyllosticta sp.on *Miscanthus sinense* ANDERS. (ススキ)

23%, 1956 山本・安盛

病斑は葉に生じ, 周囲赤褐色~紫黒褐色, 中央部灰色~灰褐色で小黒点散在。多数の病斑が融合して葉一面をおおう事がある。柄子殻は約80 μ 径, 柄胞子は 3.2 \times 2.5~3.1 μ の大きさである。

Physalospora sp.on *Castanea crenata* SIEB. et ZUCC. (クリ)

9/11, 1959 山本

灰白褐色大型の病斑内に小黒点散生。子のう殻は 3.1~4.7 μ 径, 子のうは 45.5~77.0 \times 5.3~8.1 μ , 子のう胞子は 7.8~9.4 \times 2.2~2.8 μ の大きさであり, 側糸を有する。

Plagiostromella plunostoma Höhn.?on *Lindera umbellata* THUMB. (クロモジ)

23%, 1959 山本・安盛

病斑黄褐色1~2cm径, 内に多角形黒褐色の斑点あり小黒点散生。子座は球形扁平で表皮上に生ずる。子のう殻は其の中に生じ口孔を開く。胞子は 15.6~23.4 \times 3.1~3.8 μ で3隔膜を有する。

Puccinia cirsi LASCH.?on *Cirsium yoshinoi* NAKAI ヨシノアザミ銹病菌

9/11, 1959 山本

冬胞子堆葉裏及び茎に散生, 小円形。冬胞子は長円形で表面に疣があり栗褐色。26~35 \times 20~25 μ の大きさを有する。夏胞子が見当たらないので*P. cirsi*と断定出来ない。*P. infra-aequatorialis* JøRSTEDであるかも知れない。

Puccinia dieteliana SYDOWon *Lysimachia clethroides* DUBY オカトラノオ

23%, 1956 山本・安盛 銹病菌

冬胞子堆は葉裏に生じ, 小円形, 径1mm以下で黒褐色。冬胞子は棍棒状, 15.8~22.8 \times 14.0~17.5 μ (単細胞のもの), 38.0~75.3 \times 14.0~21.0 μ (2細胞のもの)の大きさを有する。

Puccinia kusanoi DIETEL.on *Sasaella* sp. (ヒロシマザサ又はカッパシノの類)

23%, 1956 山本・安盛

冬胞子堆は葉裏に散生, 大型円形。冬胞子は棍棒状~長楕円形または紡錘形で中隔部溢れ, 先端鈍頭で厚く, 6.2~15.6 μ の長さを有する。

Puccinia patriniae HENNING IIIon *Patrinia villosa* (THUMB.) JUSS. オトコヘシ

23%, 1959 安盛 銹病菌

冬胞子堆は葉裏に生じ栗褐色, 円形, 0.1~0.2mm径, 密集して約1cmの円形群を作る。冬胞子は棍棒形または紡錘形, 2細胞で42.0~66.0 \times 15.6~26.0 μ の大きさで先端乳頭状, 膜の厚さ 1.6~1.9 μ , 淡褐色で長さ 9.3~15.6 μ の柄を有する。

Puccinia polygoni-amphibii PERS.on *Polygonum filiforme* THUMB. ミズヒキ銹病菌

23%, 1956 山本・安盛

葉裏に夏胞子堆及び冬胞子堆を散生。夏胞子は黄褐色, 17.5~24.5 \times 15.8~17.5 μ , 冬胞子は褐色2細胞, 30.0~56.0 \times 14.0~21.0 μ .

Pucciniastrum agromoniae (DIETEL.) TRANZSCH.on *Agromonia pilosa* LEDER f. *nipponica* NAKAI

ヒメキンミズヒキ銹病菌

23%, 1956 山本・安盛

葉裏に夏胞子堆を認める。夏胞子は黄褐色で疣刺あり, 大きさ10.5~17.5 \times 14.0~21.0 μ である。

Rhytisma acerinum (PERS.) FRIESon *Acer palmatum* THUMB. var. *amoenum* (CARR.)

OHWI オオモミヂ黒紋病菌

♀₁₁, 1959 山本

1~1.5cm径大型の黄褐色病斑を葉上に生じ、黒色子座は光沢あり、子のうは31.5~37.0×3.5~4.2μの大きさである。

Rhytisma punctatum (PERS.) FRIESon *Acer palmatum* THUMB. イロハモミヂ小黒紋病菌♂₉, 1959 安盛, ♀₁₁, 1959 山本

3~7mm径黄褐色~褐色の病斑中に径1mm内外の小黒点散生。分生胞子は無色単胞1.0~1.5×0.5~0.8μ。

Rhytisma shiraiana HEMMI et KURATAon *Rhododendron kampferi* PLANCH. (ヤマツツジ)on *Rhododendron reticulatum* D. DON.♀₁₁, 1959 山本 (コバノミツバツツジ)

子座は葉の上面に生ずる。子のうの大きさはヤマツツジ上のものは24.5~53.5×3.5~4.2μ, コバノミツバツツジ上のものは28.0~53.5×3.5~4.2μで大差はない。

Rhytisma ilicis-latifoliae P. HENN. ?on *Ilex macropoda* MIQ. (アオハダ)♂₉, 1956 山本・安盛

葉の表面に黒色子座。径0.3~1.5cm。患部裏面淡灰褐色、分生胞子の大きさ3.5~5.3×1.3μ。 *Rhytisma prini* SCHW. が *Ilex molleis*, *I. verticillata*, *Rhytisma ilicicolum* SCHW. が *Ilex decidua*, *I. prinoides* に (Sacc. XⅡ, 589, Sacc. VIII, 759), 又 *Rhytisma ilicis-integrifoliae* P. HENN. がモチノキ, カナメモチに, *R. ilicis-latifoliae* P. HENN. がタラ, ソヨゴにつく(北島)というが、これらの点については今後の研究を要する。

Rhytisma vibruni P. HENN.on *Viburnum phlebotrichum* SIEB. et ZUCC.♀₁₁, 1959 山本 (オトコヨウゾメ)

葉に黒色の子座を生じ、0.5~1.0cm径不正円形。子のうは21.0~28.0×2.8~3.5μの大きさを有する。

Selenophoma sp.on *Magnolia obovata* THUMB. (ホホ)♂₉, 1956 山本

病斑は大型で4~5×2~3cm, 同心輪紋状, 周囲黒褐色, 内部灰白色で灰褐色小点散生。柄子殻は褐色で53.0~93.6μ径, 柄胞子は無色単胞で新月形又は豌豆形に彎曲する。大きさ7.8~9.9×1.6~3.1μである。

Tuberculina sp. ?on *Deutzia scabra* THUMB. (ウツギ)♀₁₁, 1959 山本

葉に黄褐色, 3~7mm角の不正形病斑を生じ、葉裏面に淡黄色の分生子褥を形成する。分生子梗は隔膜あり, 46.8~56.1μの長さがあり, 分生胞子は3.7~4.7×3.1~3.4μの大きさを有する。

Volutella sp.on *Acer rufinerve* SIEB. et ZUCC. (ウリハダカエデ)♂₉, 1956 山本・安盛

全葉黄変するが、病斑大型で患部緑色を保ち褐点散在する。剛毛は隔膜を有し長さ85.8~245μ。分生胞子は18.7~24.9×2.5~3.1μ, 単胞, 新月形, 透明, 分生子褥は半円形。

Volutella sp.on *Actinidia aguta* (SIEB. et ZUCC.) PLAUCH.♂₉, 1959 安盛

(サルナシ)

病斑5~8mm径, 周囲褐色~黒褐色, 病勢進展したものは内部灰黒色。分生子褥に剛毛あり, 分生胞子は無色単胞, 鎌形又は新月形。18.7~24.9×2.5~3.1μの大きさを有する。

(b) 硬質菌及び木材腐朽菌

Bjerkandera adusta (WILLD. ex FR.) KARST.

ヤケイロタケ

♂₉, 1956 山本・安盛 ♀₁₁, 1959 山本*Chlorociboria aeruginosa* (OEDER ex GRAY) SEEVER?♂₉, 1956 山本・安盛

緑変菌

Coriulus consors (BERK.) IMAZ. ニクウスバタケ♂₉, 1956 山本・安盛*Coriulus hirsutus* (WULF. ex FR.) QUÉL.♀₁₁, 1959 山本

アラゲカワラタケ

Coriulus pargamenus (FR.) PAT. ハカワラタケ♂₉, 1956 山本・安盛*Coriulus versicolor* (L. ex FR.) QUÉL. カワラタケ♂₉, 1956 山本・安盛 ♀₁₁, 1959 山本*Daedaleopsis nipponica* IMAZ. ミイロアミタケ♀₁₁, 1959 山本*Daedaleopsis styracina* (P. HENN. et SHIR.) IMAZ.♀₁₁, 1959 山本

エゴノキタケ

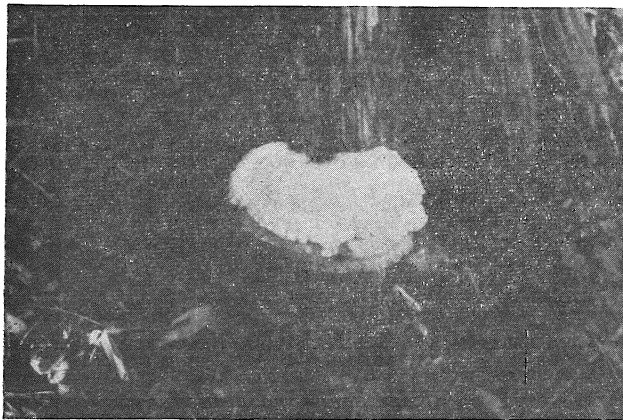
Daedaleopsis tricolor (BULL. ex FR.) BOND. et

SING. チャカイガラタケ

♀₁₁, 1959 山本*Elfviglingia applanata* (PERS.) KARST. コフキタケ♂₉, 1956 山本・安盛 ♀₁₁, 1959 山本*Fomes fomentarius* (L. et FR.) KICK. ツリガネタケ♀₁₁, 1959 山本*Fomes semilaccatus* (BERK. ex COOKE) S. ITO♀₁₁, 1959 山本

ベッコウタケ

- Geoporus amorphus* (FR.) CLEM. et SHEAR
 9/11, 1956 山本 ウラベニタケ
- Hydnum* sp.
 9/11, 1959 山本
- Hypoxyton annulatum* (SCHW.) MONT. クロコブタケ
 2/3, 1956 山本・安盛
- Innotus hispidus* (BULL. ex FR.) KARST.
 9/11, 1959 山本 ヤケコケダケ ?
- Innotus cuticularis* (FR.) KARST.
 9/11, 1959 山本
- Lactoporus sulphureus* (BULL. ex FR.) BOND. et SING. var. *minatus* (JUGH.) IMAZ. マスタケ
 2/3, 1956 山本・安盛 9/11, 1959 山本



第2図 匹見演習林内立木に発生したマスタケ

- Lenzites betulinus* (L.) FR. カイガラタケ
 2/3, 1956 山本・安盛 9/11, 1959 山本
- Microporus affinis* (BLUM. et NEES. ex FR.) KUNTZE ツヤウチワタケ
 2/3, 1956 山本・安盛 9/11, 1959 山本
- Microporus flabeliformis* (KLOTZ ex FR.) KUNTZE
 9/11, 1959 山本 ウチワタケ ?
- Panellus stipticus* (FR.) KARST. ワサビタケ
 2/3, 1956 山本・安盛 9/11, 1959 山本
- Phlebia strigoso-zonata* (SCHW.) LLOYD
 2/3, 1956 山本・安盛 ケシワウロコタケ
- Phellinus robustus* (KARST.) BOURD. et GALZ.
 9/11, 1959 山本 コブサルノコシカケ
- Poria* sp. ?
 2/3, 1956 山本・安盛 9/11, 1959 山本
- Trametes albida* (FR.) BOURD. et GALZ.
 ヒメシロアミタケ
- Trametes sanguinea* (L. ex FR.) LLOYD ヒイロタケ
 2/3, 1956 山本・安盛 9/11, 1959 山本

- Trametes dickensii* BERK ホウロクダケ
 2/3, 1956 山本・安盛 9/11, 1959 山本
 本演習林に極めて多く見出される硬質菌である。
- Tyromyces caesius* (SCHRAD. ex FR.) MURR.
 9/11, 1959 山本 アオゾメダケ ?
- Schizophyllum commune* FR. スエヒロタケ
 9/11, 1959 山本
- Stereum gausapatum* FR. チウロコタケ
 2/3, 1956 山本・安盛
- Stereum frustulosum* (PERS.) FR. カタウロコタケ
 2/3, 1956 山本・安盛 9/11, 1959 山本

(c) 軟質菌

- Auricularia auricula-judae* (BULL. ex FR.) QUEL. キクラゲ
 9/11, 1959 山本
- Auricularia polytricha* (MONT.) SACC.
 9/11, 1959 山本 アラゲキクラゲ
- Calostoma japonicum* P. HENN.
 2/3, 1956 山本・安盛 クチベニタケ
- Cantharellus cibarius* FR. アンズタケ
 2/3, 1956 山本・安盛
- Clavaria* sp.
 2/3, 1956 山本・安盛
- Collybia confluens* (PERS. ex FR.) QUEL.
 2/3, 1956 山本・安盛 アマタケ
- Collybia* sp.
 2/3, 1956 山本・安盛
- Craterellus* sp.
 2/3, 1956 山本・安盛
- Dacrymyces aurantius* (SCHW.) FARLOW
 9/11, 1959 山本 アカキクラゲ
- Favolus arcularius* (BATSCH. ex FR.) AMES
 2/3, 1956 山本・安盛 アミスギタケ
- Gymnopilus* sp.
 9/11, 1959 山本
- Laccaria laccata* (SCOP. ex FR.) BERK. et BR.
 2/3, 1959 山本・安盛 キツネタケ
- Lactarius luteolus* PEEK. ピロウドタケ
 2/3, 1959 山本・安盛
- Marasmius* sp.
 2/3, 1956 山本・安盛
- Mycena* sp.
 2/3, 1956 山本・安盛
- Naematoloma fasciculare* (HUDS. ex FR.) KARST.
 9/11, 1959 ニガクリタケ

Panus rudis FR. アラゲカワキタケ

23%, 1956 山本・安盛

Patella sp.

23%, 1956 山本・安盛

Pholiota sp.

23%, 1956 山本・安盛

Polyporellus picipes (FR.) KARST. アシグロタケ

9/11, 1956 山本・安盛

Pseudocoprinus disseminatus (PERS. ex FR.) KÜHN.

9/11, 1959 山本

Rhodophyllus salmoneus (PECK.) SING.

23%, 1956 山本・安盛 アカイボカサタケ

Rusula delica FR. シロハツタケ

23%, 1956 山本・安盛

Tramella sp.

23%, 1956 山本・安盛

Tremellodon gelatinosum (Scop.) Fr. ニカワハリタケ

23%, 1956 山本・安盛

Xerocomus sp.

23%, 1956 山本・安盛

摘 要

1956年以来、島根農科大学匹見演習林で採集した 123 種の菌類を調査し、65種の顕微鏡的菌類に就いては簡単な記載を附した。

Summary

Since 1956, one hundred and twenty-three species of fungi were collected at Hikimi College Forest, Shimane Agricultural College

(Hikimi, Mino-gun, Shimane-Ken), and brief descriptions on sixty-five microscopic fungi were given in this paper.